

# 手話会話分析のための書き起こし手法構築

坊農真弓 (国立情報学研究所)・菊地浩平 (国立情報学研究所/千葉大学大学院)

## 【研究の概要】

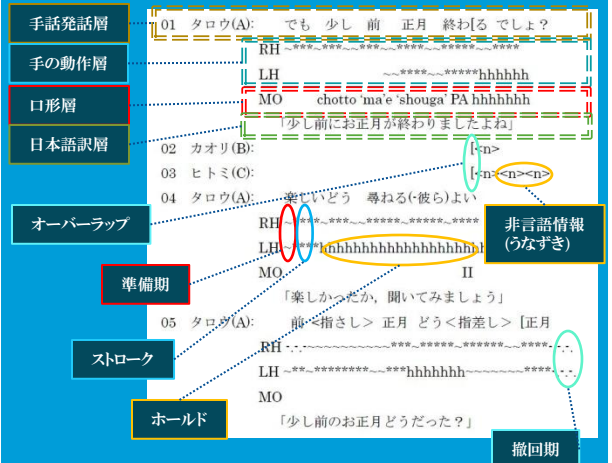
日本手話は、手の動きのみならず、表情や視線といった情報も言語的要素を担う。

これまでStokoe (1960)を始めとする様々な研究者が、それぞれの研究目的を満たした、手話の情報を文字化する手法を提案してきた。手話を扱う論文では、静止画(ときに静止画を基にしたイラスト)を2, 3枚提示する、矢印を書き込むなどして動きの変化を表わしてきた。

しかしながら、そういった手法のみでは、手話のコミュニケーション研究のための資料を作成することは難しい。

本発表では、ジェスチャー研究のジェスチャー単位の考え方(Kendon, 1972, 2004; McNeill, 1992, 2005)と会話分析のトランスクリプションの考え方を融合させ、手話会話に含まれる視覚的な情報を書き起こす手法を紹介する。

## 【トランスクリプションの構成】



これまでの手話研究では、手話単語を構成するための手の動きを「保持(hold)―動作(movement)―保持」(Liddell, 1986), 「場所(location)―動作―場所」(Sandler, 1986), 「位置(position)―動作―位置」(Perimutter, 1992)等、様々な術語で呼んできた歴史がある。本論文では、ジェスチャー研究を土台とするKita et al. (1998)の記法を参考に手話動作を書き出す。

## 分析1: 手話会話における順番交替の一考察

問い「カオリとヒトミはいかにしてタロウの発話の区切りを理解したのか」

```

01 タロウ(A):   でも 少し 前 正月 終わ[る] でしょ?
                RH ~~~~~
                LH          ~~~~~h h h h h h
                MO   chotto 'ma'e 'shouga' PA h h h h h h
                   「少し前にお正月が終わりましたよね」
02 カオリ(B):                                     [<n>]
03 ヒトミ(C):                                     [<n><n><n>]
    
```

1行目でタロウは、カメラに向かって状況説明(最近お正月が終わったことなどの説明)をしている。このときのタロウの視線はカメラに向けられたままであるが、カオリとヒトミはタロウの発話の末尾付近で同時にうなずいている。

シグナル(1): 手話表現のホールドと命題表現  
シグナル(2): マウスジェスチャーの付与とホールド

## 分析2: 手話会話における発話の重複の一考察

問い「カオリの発話はなぜ/どのようにしてタロウの発話に重複されたか」

```

05 タロウ(A):   前 <指さし> 正月 どう<指さし> 正月
                RH ~~~~~
                LH ~~~~~h h h h h h ~~~~~
                MO   「少し前のお正月どうだった?」
06 カオリ(B):                                     正月 <指さし> (0.2)
                RH          ~~~~~hh
                LH          ~~~~~h h h h h h h h h h h h
                MO          oshouga
                               「お正月」
    
```

5行目の冒頭でタロウはカオリに体と視線を向け変え、カオリの正月はどうだったのかをたずねている。

「なぜ」に関わる現象: タロウの繰り返し表現  
「どのようにして」に関わる現象: カオリのマウジングの先行

## まとめ

本発表で紹介した手法を用いることにより、例えば従来観察することが難しかった手話の動きの生成と表情や口の動きの生成のタイミング分析や(ジェスチャー研究の視点)、手話の動きの生成開始点を含んだ手話会話のオーバーラップ分析など(会話分析の視点)が可能になると予想される。